

未来が求める、その先の学び舎へ！

◎第1回入学式、開校記念式典で新たな一步を踏み出す『智学館中等教育学校』開校

学校法人常磐大学の開学100周年記念事業のひとつとして「智学館中等教育学校」が開校し、4月5日に第1回入学式が挙行された。一期生は92名。それぞれが希望を胸に、新たな一步を踏み出した。

智学館は、ひとつの学校において一体的に中高一貫教育を行う中等教育学校。高校受験によって分断されることのない6年間の流れの中で、生徒



●温かくやわらかな雰囲気の木造2階建て校舎。

一人ひとりの個性を重視した教育により独自の人材の育成を目指す。4月26日に行われた開校記念式典には、全校生徒、保護者、学校法人常磐大学関係者のほか、開校にあたってご尽力いただいた各界の方々が多数参加。これから智学館が実践する新しい教育に、大きな期待を寄せていた。

グローバル化に対応する世界的視野を持った人材を育成

21世紀の教育を目指す智学館には、さまざまな特色がある。開校式の式辞で諸澤英道理事長が取り上げた「英語教育の充実」もそのひとつだ。グローバル化が進む今日、世界中でさまざまな民族が英語でコミュニケーションをとっている。このような状況の中、多様な文化を生きるためには、国際語としての英語を身につけることが必要となる。そこで智学館は、慶應義塾大学の田中茂範先生のご指導のもと、ネイティブスピーカーの教員を含む英語の全教員が、研修を重ねながら授業を準備。オリジナルの教科書も作成し「英語教育日本一」を目指す考えだ。

現在の日本には「人間の尊厳を大切にし、世界的視野で考え行動できる人材」が求められている。確かな英語力を前提とし、国を超え、民族を超え、人類としてどうあるべきなのかを考える力を育む教育。智学館中等教育学校の扉は、常に世界に向けて開かれている。



Tokiwa Memories #1



●智学館中等教育学校West Gymで挙行された入学式。



●開校式では、マンサクなどの記念植樹が行われた。

■ 学科改編を実施し、2008年度を迎える

4つの新学科を加え新たなスタート

● 学生の学習意欲に応えられる環境整備を推進

常磐大学・常磐短期大学の入学式が4月3日に執り行われ、いよいよ2008年度が幕を開けた。今年度は全学的な学科改編を実施し、新しく4つの学科が誕生。それぞれの学問領域で、新しい知への取り組みが開始されている。

人間科学部の「心理学科」では、心理学の基礎と応用を学び、実社会で活躍できる人材を育成。現代人が抱える問題の解決策を、実践的手法で学ぶ。「教育学科」では、広い視野と専門性を備えた小学校教員を養成。小学校での指導法を身につけると共に、幼児教育の理論と実践も学ぶ。「健康栄養学科」は、短期大学食物栄養専攻が培ったノウハウを基盤に開設。栄養学だけでなく医学的な知識も身につけ、全員が管理栄養士国家試験の



常磐大学記念体育館で実施された入学式

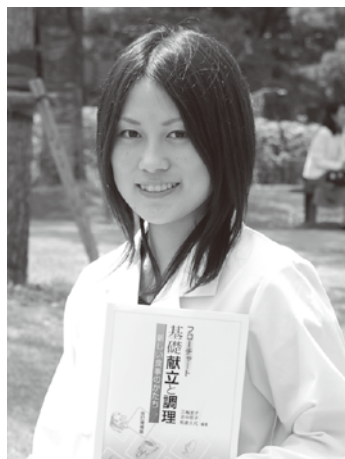
合格を目指す。国際学部の「経営学科」では、次代のビジネスリーダーを育成。企業経営の理論や動向を学びながら企業とも連携し、高度なスキルを習得する。

また、大学院人間科学研究科修士課程臨床心理学領域が、財団法人日本臨床心理士資格認定協会から、2009年4月1日より向こう6年間、

第1種指定大学院に指定された。今回、第1種指定大学院になったことで、修士課程修了後直ちに同協会による臨床心理士資格認定試験の受験資格を得られることとなり、心理学を学ぶ学生たちのモチベーションの向上にもつながっている。

常磐大学・常磐短期大学は、これからも学生たちの学習意欲に応えられる環境の整備を進めていく考えだ。

健康栄養学科学生インタビュー

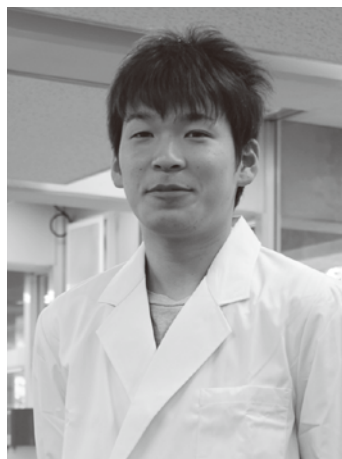


interview*1
子どもたちに
バランスの良い
食事を提供したい!

廣野 千穂さん
人間科学部 健康栄養学科



以 前から趣味の料理を活かして人の役に立つ職業に就きたいと考えていたので、管理栄養士という道を選んだのは自然なことだったと思います。実際に授業を受け、医学や化学をこんなに勉強するのかと驚きました。中でも不安だったのが、苦手科目の化学。でも、先生が図などを使って基礎から丁寧に教えてくださるので、だいぶ理解できるようになりました。いまは、講義がメインですが、そろそろ実験も始まると聞いています。見たこともない器材でどんな実験をするのか、いまから楽しみです。現在の目標は、4年後の国家試験に向け苦手科目を克服すること。将来は、子ども病院や小学校などで、バランスの取れた食事を提供し、食事の大切さを指導できる管理栄養士になりたいと思っています。



interview*2
美味しい食事が
最高の結果を
導き出します!

飯塚 由祐さん
人間科学部 健康栄養学科



高 校で陸上部に所属していたこともあり、カロリー計算や栄養バランスなど、独学で体調管理をしていました。だから、食事を通して選手の栄養管理を行うスポーツ栄養士は、自分の経験を活かせる職業だと思ったんです。常磐大学に進学を決めたのは、医学系の授業が多く取り入れられていたから。ここでなら、多くの知識を得られると思いました。授業では予想していた以上に覚えることが多くてたいへんですが、先生方は皆やさしく、とても丁寧に教えてくれます。調理実習は、もともと料理が好きだったので楽しいです。将来は、美味しくて栄養価の高い食事を、選手たちに提供したいと思います。自分の作った食事で、最高の結果を残せるよう、スポーツ栄養士としてサポートしていきたいです。

TOKIWA INTERVIEW ⑧

第1弾 第2回 NEXT TOKIWA 未来創造連続講演会より

グローバル化に対応する 21世紀の大学とは ～開かれた知の拠点へ～

中嶋 嶺雄 氏 (国際教養大学理事長・学長)



日本の大学は、まもなく18歳人口と大学の総定員が同じになり全入時代がくるという「2009年問題」に直面する。このような状況の中、21世紀の大学とはどうあるべきか。これまで、多くの教育行政に関わり、日本初の公立大学法人国際教養大学を立ち上げた中嶋嶺雄先生にお話を伺った。

「国際化・情報化・グローバル化という21世紀の潮流の中で、日本の大学は国際競争力をもっているのでしょうか。今やひとつの傾向として、優秀な学生が日本の大学をパスしてアメリカやヨーロッパの大学に行ってしまうケースが増えており、これは日本の大学の空洞化につながります。少子化に伴う定員割れや財政難による大学の倒産だけではなく、国際的な市場競争の波が押し寄せてきているのではないかと私は考えています」

国内での競争だけに目を奪われていると、国際競争には勝てない。大学の教育体制をグローバル・スタンダードに合わせる必要がある。

「大学教育のありかたそのものを、国際レベルに引き上げなければなりません。急務となるのは英語教育の改善です。グローバル社会では、国境が低くなり、さまざまなことが世界中で同時に進行します。しかし、世界の出来事をリアルタイムで報道するCNNやBBCを聞いても、ほとんどの学生が理解できない。これでは、いつまで経っても日本は国際舞台で沈黙するしかなく、経済的な貢献だけしかできません。この状態を打開するためには、大学が国際社会で活躍できる人材を育成し、学生たちの英語能力を飛躍的に高める必要があります」

中嶋先生が学長を務める国際教養大学では、学生の英語能力を高める画期的な制度を導入した。

「授業をすべて英語で行っています。英語を学ぶのではなく『英語で学ぶ』授業です。また『日本人が日本語で日本人に教える』という教育体制にも問題があります。日本の英語教育は1873(明治6)年設立の東京外国語学校(現・東京外国語大学)が基礎を築きました。その1期生に新渡戸稲造や岡倉天心、内村鑑三がいます。彼らは外国人の「お雇い教師」

によって英語で英語を学びました。現在のような受験用の英語ではなく、コミュニケーションツールとなる生きた英語を身につけたのです」

また、新渡戸らは優れた教養人として、たくさんの英語の本を現在に残している。

「彼らは、それぞれが日本の思想を伝える本を英語で書き、海外で出版しました。特に新渡戸は著書『武士道』の中で、自らの国際経験を通じて日本の倫理的価値が、国際社会できちんと評価されるべきだと主張した。このような知の挑戦を可能にしたのは、彼の優れた英語能力はもちろん、国際的比較の視点に立った教養であったと思います」

しかし日本の多くの大学は、専門性を重視する一方、知の土台となる教養を軽視してきた傾向がある。

「日本の多くの大学は入学する時点で、専攻科目を決めなければなりません。そして大学は、学生を専門の小部屋に閉じ込めてしまう。しかし、本当の知力は専門知識にあるのではなく、教養にあります。だから大学では、リベラル・アーツ(教養)を徹底的に身につけるべきです。英語というツールを十分に活用するためには、幅広い教養が必要なのです。常磐大学も教養大学として、しっかりと位置付けることが大切なのではないでしょうか」

英語教育と教養教育。この2つへの取り組みが、21世紀の大学に不可欠な要素となりそうだ。

PROFILE



なかじま・みねお ●1936年生まれ。東京外国語大学中国科卒、東京大学大学院社会学研究科修士、社会学博士。東京外国語大学学長を務め、オーストラリア国立大学、カリフォルニア大学サンディエゴ校大学院の客員教授などを歴任。現在、全国初の公立大学法人国際教養大学理事長・学長として、日本の大学改革に挑戦する。著書は『北京烈烈』(サントリー学芸賞受賞、講談社学術文庫所収)、『国際関係論』(中公新書)、『21世紀の大学』(論創社)など多数。



心理臨床センター公開講演会開催

現代日本の家族の問題について講演

常磐大学心理臨床センターの主催する公開講演会が、3月9日、常磐大学M棟において開催され、地域住民ら約150名が熱心に耳を傾けた。講演は「現代日本の家族について～家族療法の視点から」と題して、文教大学大学院人間科学研究科講師である秋山邦久先生が行った。



秋山先生は臨床心理士であり、現在は文教大学で家族心理学、家族療法を担当されている。文教大学に赴任される前は、15年ほど児童相談所で心理判定員として、非行、児童虐待、機能不全家族などの問題に深く関わってきた。

講演では、先生の経験談を交えながら、現代家族の抱える

問題として、離婚やDV(ドメスティック・バイオレンス)などの夫婦間問題や児童虐待や親殺しなどの親子間の問題、不登校などの育児・子育て問題があることを解説した。また、「子どもの声が聞こえない、大人の声が届かない」状況にある現代社会においては、親子であっても意識的に「ことば」や「表情」で表現して、お互いに話を聞いてもらえる努力が必要であると指摘。

急激な社会変化によって、家族の抱える問題も多様化しているが、家族は私たちにとって一番身近な社会である。先生の熱心な話しぶりに、家族の問題に勇気をもって立ち向かうパワーを与えられた方が多かったようだ。

「自治制度研究会」を発足

16市町村と「政策・企画」「財政運営」を研究

常磐大学では、相互の連携と協力により、地域課題に迅速かつ適切に対応し、活力ある個性豊かな地域社会の形成と発展に寄与することを目的として、今までに水戸市、笠間市、桜川市、茨城町、那珂市、日立市とそれぞれ連携協力協定を締結してきた。

このほど、上記自治体を含む県内16市町村とともに、人材の育成や効率的な計画・予算案の策定に向けた共同研究の場として、「自治制度研究会」を発足。「政策・企画」「財政運営」の2テーマに分かれて、コミュニティ振興学部 横須賀 徹教授と各地方自治体の職員が意見交換をする。職員は、総合計画や予算編成に係わる資料を持ち寄って、ノウハウや意見を交換したり、県外の先進的事例を学んだりしながら、業務の効

率化につなげる。5月から7月にかけて「政策・企画」研究会は計10回、「財政運営」研究会は計9回、毎週開かれる。



連携事業「連続市民講座」開講

「地域社会の安心・安全・安定を考える」

読売新聞東京本社水戸支局と常磐大学の連携事業である連続市民講座(全13回)の第1回目が4月19日に常磐大学H棟で開催され、地域住民ら約200名が集まった。

講座に先立つ開講式では、高木勇夫学長が「問題の現状と本質、課題と解決策を地域の皆さんと一緒に探っていく双方向の講座にしたい」と挨拶した。

常磐短大副学長の安田尚道教授が、「危うい景気回復と生活の不安定」と題し、日本的経営の特徴と社会的機能の崩壊や、正規雇用と非正規雇用の格差などの問題を取り上げながら、私たちの生活の質を上げる能力をどうやって形成していくかが経済成長と生活の安定を両立させる鍵になると話した。全13回の講座概要は、右表の通りである。

日程	担当(敬称略)	テーマ
4月19日(土)	安田 尚道	危うい景気回復と生活の不安定
5月31日(土)	諸澤 英道	被害者教育と地域の安全
6月14日(土)	江波 諄子	何が本当の子育て支援・親支援か?
7月12日(土)	伊藤 晋二	家族とうつ
8月9日(土)	柄澤 行雄	家族と地域の安心の今と昔
9月20日(土)	島田 茂樹	発達障害のある人を支援する
9月27日(土)	村山 元理	掃除と企業理念
10月11日(土)	唐木 圀和	中国経済の発展と日本の安心・安全・安定
11月22日(土)	富田 教代	食育と健康長寿社会
12月13日(土)	千葉 茂	食の安全に対する考え方
1月24日(土)	池田 幸也	市民参加と地域福祉
2月14日(土)	井上 繁	安心・安全なまちづくり
3月7日(土)	高木 勇夫	時代の潮流と地域社会の安心・安全・安定

学生支援センター

キャリア支援担当から

持続的な経済成長と正社員化の流れ、労働力人口の減少予測などを背景に、企業の採用意欲は上昇を続けてきたが、来春の採用計画も大概この傾向は継続する見通しにある。学生にとっては「売り手市場」と有利な環境下にあるが、学生の「質」を重視する企業の姿勢に変化はなく、厳しい就職戦線が待ち受けている。また、企業の採用意欲の高まりと共に、近年では就職活動のスタート時期が早まる傾向にある。よりよい就職を果たすためには、早期から目標を定め、計画的な活動を心がけなければならない。

常磐大学・常磐短期大学キャリア支援担当では、このような今日の就職事情に対応したさまざまな支援プログラムを用意して学生の就職をサポートしている。各種対策セミナーの開催はもちろん、学生それぞれの志望や個性を十分に尊重した指導を motto に、あらゆる相談に応じている。その結果、常磐大学・常磐短期大学とも就職率は9割以上を記録し、良好な結果を残している。

● 2007年度就職状況報告

2007年度の就職率は大学が90.7%、短大で96.8%であった。引き続き良好な水準を確保することができた。背景には、企業の強い採用意欲の継続があり、本学に寄せられた3月までの求人件数は、大学2,394件、短大1,699件と、あわせて昨年を306件上回っていた。主要企業の採用活動は早期化しており、早い段階で採用を確定させて、夏前には終了した。一方で、採用枠を確保できなかった企業が秋以降も採用活動を継続し、長期化する傾向も見られた。

業種別の就職状況は、卸・小売、金融・保険、サービス、医療・福祉が多くなっている。大学の就職先では、日本郵政グループ、常陽銀行、茨城県信用組合などの金融機関や茨城県警察本部が就職学生数の上位を占めており、堅実で安定した企業や公務員が人気就職先である。短大では、どの学科でも100%に近い就職率となっている。キャリア教養学科では、4名が総合職に採用され、東京電力、JR東海パッセンジャーズ、ANAサービス業務、東京海上日動火災など東京の大学に負けない就職先である。幼児教育保育学科では3年連続して100%の就職率で、中でも4名の地方公務員採用があった。

区分	卒業生	就職希望者	就職者	就職率 (%)
人間科学部	308	283	255	90.1
国際学部	191	183	169	92.3
コミュニティ振興学部	191	178	160	89.9
大学計	690	644	584	90.7
キャリア教養学科	133	129	123	95.3
幼児教育保育学科	148	147	147	100.0
生活科学科生活科学専攻	56	50	45	90.0
生活科学科食物栄養専攻	86	79	77	97.5
短期大学計	423	405	392	96.8

業種別就職先

業種	就職先	大学	短大	計
複合サービス事業	日本郵政グループ	19	4	23
金融業	株式会社常陽銀行	15	3	18
金融業	茨城県信用組合	10	4	14
公務	茨城県警察本部	12	0	12
小売業	株式会社カスミ	7	4	11
金融業	株式会社茨城銀行	9	1	10
飲食店	株式会社日本レストランエンタプライズ	7	2	9
小売業	株式会社スズキ自販茨城	8	1	9
運輸業	東日本旅客鉄道株式会社 (JR東日本)	7	1	8
小売業	株式会社ケーズホールディングス	6	1	7
金融業	株式会社関東つくば銀行	5	1	6
金融業	水戸信用金庫	3	3	6

その他の就職状況

- 建設業
 - 積水ハウス株式会社
 - 住友林業株式会社
 - 茨城セキスイハイム株式会社
- 製造業
 - 株式会社日立製作所
 - 日立化成工業株式会社
 - キャノン株式会社
 - SMC株式会社
 - 横浜ゴム株式会社
- 電気・ガス・熱供給・水道業
 - 東京電力株式会社
- 運輸業
 - ヤマト運輸株式会社
 - 日本通運株式会社
- 卸売・小売業
 - イオン株式会社
 - 株式会社オンワード樫山
 - 株式会社JR東日本リテールネット
 - 株式会社羽田エアポート
 - エンタープライズ
 - 株式会社水戸京成百貨店
 - 茨城トヨタ自動車株式会社
- 金融・保険業
 - 株式会社みずほ銀行
 - 商工組合中央金庫
 - 大和証券株式会社
 - 明治安田生命保険相互会社
 - 東京海上日動火災保険株式会社
 - 株式会社損害保険ジャパン
- 不動産業
 - 株式会社三井リハウス東京
 - ダイワロイヤル株式会社
- 医療・福祉
 - 株式会社日立製作所
 - 茨城病院センター
- 複合サービス事業
 - 水戸農業協同組合
- サービス業
 - 株式会社ジェイアール東海パッセンジャーズ
 - 株式会社伊勢基本社
- 公務
 - 茨城県(小中学校事務)
 - 栃木県警察本部
 - 水戸市役所
 - 日立市役所

現代教養講座で「諸澤みよ記念館」を見学

● 創立者 諸澤みよの生き方に学ぶ



常磐短期大学では、全学科共通の現代教養講座という教育課程を設けている。その中でも必修の「心の充実」は、常磐短大の学生としての明確な自覚を持つことや、短大で学ぶための基礎的な知識・技能の修得などを目的に、「なぜ」学ぶのかを再認識する授業である。教育理念「自立・創造・真摯」について学んだり、文章の書き方などの学習作法について学んだりしている。

新入生は4月中に「諸澤みよ記念館」を見学し、創立者諸澤みよの足跡をたどりながら、学校の歴

史と伝統を知り、常磐短大の学生になった自分を認識して、みよの生き方からこれからの生活を豊かにするヒントを得る。見学をした学生からは「みよ先生の時代は質素な感じがしました。今は恵まれていると思います」「学校を創るという強い情熱が伝わってきました」などの感想が寄せられた。

「諸澤みよ記念館」は、学校法人常磐大学開学100周年記念事業として、2006年12月に開館した。映像によってみよの生涯や法人の歩みを理解するギャラリー1や裁縫伝習所当時の授業風景を復元したギャラリー3など、さまざまな仕掛けを凝らした展示でみよの軌跡をたどることができる。1909年にみよが裁縫伝習所を開設してから、まもなく100年。常磐の歴史を感じにぜひ立ち寄りしてほしい。

詳細は卒業生センター(TEL.029-231-8162)まで。



目覚ましく活躍する運動部のアスリートたち

● 更なる飛躍を目指して

運動部の活躍が目覚ましい。フェンシング競技では、昨年度インターハイ優勝の鬼澤大真さんが、今年の県予選も順調なスタートを切った。4月には世界ジュニアアカデ大会に参加するなど、海外遠征に挑戦し、大きな経験を積んできている。体操の関東高校大会県予選においては、佐藤宏太さんと茅根亜利紗さんが男女個人総合優勝、団体でも男女アベック優勝を飾った。佐藤さんは得意のあん馬で全国選抜大会で2位に入賞した時の得点を上回る高得点を記録、実力を発揮した。また、剣道部男子は、強豪校が多い茨城県大会において、6位入賞を果たしている。

男子サッカー部も、関東高校大会県予選会で、昨年の全国大会出場校から勝利を収めての価値あるベスト8。創部以来初のベスト8進出とあって、チームは次のステップへと勢いづいている。さらに男子バスケットボール部の躍進も続く。県内大会ではベスト4の常連校となり、関東大会出場も果たした。5月に行われた県予選会では、県内一の実力を持つ土浦日大高校から、見事な逆転勝利を収め、準優勝。次の目標はインターハイ県予選優勝、全国大会出場である。

他の部活動も、それぞれの種目で上位大会への出場を目指し、集中力を高め活動中である。



(写真左から) フェンシング鬼澤さん、体操部、剣道部。

子育て支援情報誌『Sa・Sa・e』創刊

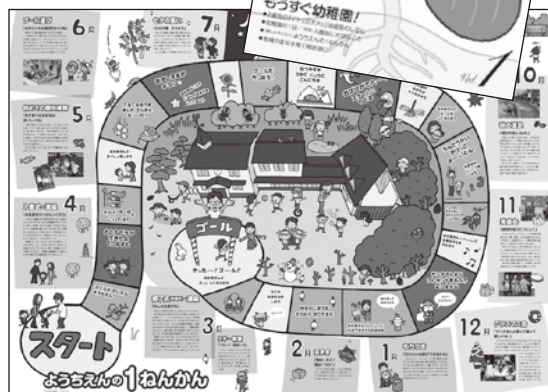
● 家庭生活から幼稚園生活への移行をサポート

常磐大学幼稚園では、子育て支援情報誌『Sa・Sa・e』を2008年6月に創刊。コンテンツとして…

- ① 2歳児は「自分」が芽生える大切な時期
～「イヤ!」「ダメ!」は成長のしるし
- ② 幼稚園の一日
～幼稚園はこんなに楽しいよ!
[対談] 入園前に大切なこと
- ③ 楽しいすごろく
～「ようちえんの1ねんかん」

の3点に的を絞り、就園前のお子さんと保護者の方が不安なく家庭生活からスムーズに幼稚園生活へ移行できる支えとなるような子育て支援情報誌に仕上がっている。本誌は、一度読んだら捨てられてしまわないよう、親子で楽しめるすごろく「ようちえんの1ねんかん」が巻末にあるほか、裏表紙には、地域の主な子育て相談窓口の一覧表(水戸市)が掲載されている。広く多くの方に読んでいただき末永く活用してもらいたいと考えている。

▶ 子育て支援情報誌『Sa・Sa・e』創刊号。



また、編集にあたっては、常磐大学人間科学部江波淳子教授、常磐短期大学幼児教育保育学科山路純子教授、常磐大学幼稚園2代目園長松丸令子先生に多くのご協力ご助言をいただいた。

※子育て支援情報誌『Sa・Sa・e』をご希望の方は、常磐大学幼稚園受付まで。

OG now!

卒業生の活躍

留学先のアメリカで9研究科を有する大学院を首席で卒業!

■アメリカ・カリフォルニア州立大学大学院(フレズノ校) カウンセリング研究科修了



首席卒業

前小屋 千絵さん



常磐大学大学院人間科学研究科修士課程を修了し、様々な被害者を対象としたカウンセリング技法について研究するためカリフォルニア州立大学大学院へ留学していた前小屋千絵さんが、大学院修士課程を修了するにあたり学長賞(メダル)を授与された。9研究科790名の大学院修了生の中で、最も優秀な学生に授与される大変名誉ある賞である。前小屋さんは成績優秀であることはもちろん、地域社会への貢献なども評価されて受賞に至った。2005年のアメリカ被害者学会シンポジウムのポスター発表で1位を受賞したほか、2006年の国際被害者学シンポジウムの学生論文大会においても優勝するなど研究にも力を入れた。また、フレズノ市の病院やドメスティックバイオレンス(DV)の被害者を支援するセンター、留学生の生活や勉強を支援するセンターでカウンセラーを務めるなど実務経験も積んできている。

「私の研究活動や地域社会への関わりを認めてくれ、それを評価してくださった先生方に恵まれたことをとても嬉しく思います」と受賞の感想を語る前小屋さんだが、留学中は大変なことも多かったようだ。「苦労したことは、やはり英語です。日常会話はある程度マスターできても、カウンセリングとなると、現地の人が使うスラングを覚えたり、クライアントの微妙な表現を理解することも必要です。特に、感情を表す表現方法が日本語と比べかなり多いので、言葉のニュアンスを理解するのに苦労しました」

日本に帰国した前小屋さんは、「2つの大学院で学んだことによって、カウンセリングと被害者学を理論と実践の両面から学ぶことができ、今後はそうした経験を生かせるような仕事に就ければと願っています。将来的には博士号の取得も視野に入れ、研究活動も継続していきたいと考えています」と抱負を語ってくれた。

常磐大学大学院
常磐大学
常磐短期大学
常磐大学高等学校
常磐大学幼稚園
智学館中等教育学校

寄付者ご芳名 *敬称略 [期間2008年1月~4月]
皆様のご厚情に深く感謝し、以下のとおりご報告いたします。

◆一般寄付

寄付者	金額	内容
常磐大学2007年度卒業生(678名)一同	650,000円	常磐大学・卒業記念品代
常磐短期大学2007年度卒業生(415名)一同	400,000円	常磐短期大学・卒業記念品代

◆特別寄付

寄付者	金額	内容
水戸信用金庫	3,000,000円	常磐大学における地域金融に関する教育研究の奨励(寄付講座含む)

◆現物寄付

寄付者	内容
戸田建設(株)関東支店 (株)西山工務店 (株)三上建築事務所 関彰エンジニアリング(株) (株)関電工茨城支店 東通産業(株)	智学館中等教育学校・教育関係備品 (プロジェクター・スクリーン 各8点)
(株)常陽銀行	智学館中等教育学校・絵画
(有)大和田造園	智学館中等教育学校・教育環境整備(構内樹木)
常磐大学高等学校後援会	常磐大学高等学校・課外活動備品 6点
菊池 保則 (常磐大学高等学校卒業生・プロ野球入団記念)	常磐大学高等学校・課外活動備品 (野球用スピードガン)

2008年度役員等一覧 (2008年6月2日現在)

理事長 諸澤 英道 元常磐大学長、 大学院人間科学研究科教授	評議員 佐久間 正祥 水戸赤十字病院長
特別顧問 西原 春夫 元早稲田大学総長、 元全私学連合会会長	評議員 立原 久 元(株)常陽銀行常務取締役
顧問 阿部 充夫 (財)放送大学教育振興会会長、 元文部事務次官	評議員 諸澤 篤子 元上智大学講師
顧問 黒木 剛司郎 元茨城大学長、同大学名誉教授	評議員 村田 幸子 元NHK解説委員
顧問 Gerald L. Curtis コロンビア大学教授	評議員 川勝 平太 静岡文化芸術大学長
顧問 中西 元男 (株)PAOS代表取締役社長	評議員 石渡 千恵子 石渡産婦人科病院副院長、 茨城県教育委員会委員
顧問 Hans. J. Marx (学)南山学園理事長、 南山大学附属小学校長	評議員 竹内 順一 茨城交通(株)取締役社長
顧問 大谷 啓治 元上智大学長、上智大学名誉教授	評議員 澁谷 勲 (株)常陽銀行取締役会長
理事 関 正夫 関彰商事(株)代表取締役会長	評議員 小田 卓爾 慶應義塾大学名誉教授、 帝京大学中学校高等学校長
理事 宮田 武雄 茨城県立産業技術短期大学校長、 元茨城大学長	評議員 高橋 潤二郎 アカデミーヒルズ顧問、 慶應義塾大学名誉教授
理事 渥美 東洋 (学)中央大学理事、 中央大学名誉教授	評議員 唐木 園和 常磐大学国際学部教授
理事 佐久間 正祥 水戸赤十字病院長	評議員 竹中 治利 常磐短期大学教授
理事 高橋 潤二郎 アカデミーヒルズ顧問、 慶應義塾大学名誉教授	評議員 浅岡 廣一 常磐大学高等学校長
理事 諸澤 英道 元常磐大学長、 大学院人間科学研究科教授	評議員 山田 隆士 智学館中等教育学校長
理事 高木 勇夫 常磐大学・常磐短期大学長	評議員 榎本 正明 常磐大学幼稚園長
常任理事 糸賀 茂男 常磐大学人間科学部教授	評議員 齊藤 久展 (学)常磐大学理事長室長
常任理事 小櫃 重秀 (学)常磐大学事務職員	評議員 池田 正則 常磐大学同窓会会長
常任理事 宮田 雅史 (学)常磐大学事務職員	評議員 中崎 啓子 常磐短期大学同窓会 みわの会会長
監事 荒川 誠司 弁護士、荒川法律事務所	評議員 住谷 里子 常磐大学高等学校 常磐学園同窓会副会長
監事 若山 実 税理士、若山実税理士事務所	評議員 郡司 恵一郎 常磐大学後援会会長
評議員 宮田 武雄 茨城県立産業技術短期大学校長、 元茨城大学長	評議員 加藤木 正文 常磐短期大学父母の会会長
	評議員 小室 潤一 常磐大学高等学校PTA会長
	参 与 藤村 和男 (財)教科書研究センター常務理事
	参 与 田中 茂範 慶應義塾大学環境情報学部教授

Tokiwa Memories
—表紙写真解説—

学校法人常磐大学は、創立者諸澤みよ(1887~1974年)が1909年に水戸市馬口労働に開設した小田木裁縫伝習所に端を発する。みよは、黒板を用いて裁縫理論を教授しており、当時としては画期的な手法であった。

(写真=1918年)

編集後記

関東地方も梅雨入りし、連日の雨がキャンパスの草木を潤しています。日本にとっては恵みの雨ですが、中国・四川大地震の被災地では2次災害を引き起こしていると伝えられています。また、サイクロンで大きな被害を受けたミャンマーの復興状況も気掛かりです。国際援助とそれを阻む壁。私たちは多角的な視点から、この問題を注視する必要があるのかも知れません。



第23回国民文化祭・いばらき2008 学校法人常磐大学は、国民文化祭・いばらき2008を応援しています。
平成20年11月1日(土)~9日(日)